



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は  
こちらにあります  
[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



## 屋久島世界遺産地域科学委員会・ヤクシカWG合同会議を開催

(7月9～10日)

令和元年度世界遺産地域科学委員会と特定鳥獣保護管理検討委員会及びヤクシカ・ワーキンググループの合同会議が2日間にわたり、屋久島町の環境文化村センターにおいて開催されました。

### ■ヤクシカWGの概要 (7月9日)

会議では、ヤクシカの生息状況、平成30年度及び令和元年度の各機関の取り組み等について報告がありました。また、九州森林管理局からは、前回の会議で意見が多く出された「森林生態系管理の目標」について提案があり、本年度の実施内容や各項目について議論されました。大変貴重なデータとなることを見込まれるので評価する等の意見もありましたが、西部地域における生態系保全とシカ対策については十分に論議しながら進めることが重要との意見がありました。



あいさつする井口計画保全部長

### ■科学委員会 (7月10日)

科学委員会では、①屋久島世界遺産地域モニタリング調査結果及び令和元年度の調査計画②前回開催時の議論の整理について③各種会議からの報告④屋久島世界遺産地域管理体制について説明がありました。



西部地域について論議

環境省からは、特異の自然景観資源の現況調査及び遺産地域の管理体制等について説明があり、現況歩道の管理において看板等の設置や管理体制の機能強化等について議論されました。

九州森林管理局からは、垂直方向の植生モニタリング調査結果や今後の予定、高層湿原保全対策検討会等について議論されました。その中でも、花之江河における水収支や水位及び地質調査等のモニタリング調査、丸太を使用し作設する試行的保全対策に関しては、各委員の方からの助言等を踏まえ、登山客へのアナウンス方法についても取り組むこととしました。また、縄文杉前面の下層植生についても意見があり、中長期的に見据え検討することとしました。



活発な論議が続く

## 屋久島レクリエーションの森保護管理協議会総会開催 (7月22日)

屋久島町役場新庁舎において令和元年度の総会が開催されました。冒頭、会長の荒木町長から「協力金の収入減により厳しい財政運営を強いられる中、予算の範囲内で本来レク森が取り組まなければならない事業を取捨選択しながら実施していることにご理解いただくとともに、皆様の活発なご意見をいただきたい」とのあいさつがありました。続いてオブザーバーの屋久島森林生態系保全センター黒木所長から「必要な安全対策や来訪者の要望などを事業計画に基づき着実に実行し、名実ともに日本一のレク森を目指していただきたい」とのあいさつがありました。



あいさつする黒木所長

総会では、平成30年度の活動実績や決算報告、令和元年度の活動計画及び予算の提案がなされ承認されました。特記事項としては、本年5月18日の屋久島豪雨災害を受けて荒天時におけるレク森利用時の取り扱いは、より安全を最優先すること、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会のロゴマークを作成することが承認されました。

平成30年度の白谷雲水峡・ヤクスギランドの入場者数は前年度より16千人減少していますが、外国人入林者数の入林者総数に占める割合が13.7%と年々高くなっています。これまで以上に利用者へのサービス等質の向上を目指し、適切な整備をしていくこととしています。

## わたしの美しい森 フォトコンテスト

日本各地の森の魅力を伝える写真を募集します。募集期間や応募資格・方法等についてお知らせしますので、多数のご応募をお願いします。

### ■募集部門

- ①景観部門: 森の絶景・森から見える眺望など、森の風景を撮影したもの
- ②生命部門: 森で育まれる生物(昆虫・動植物)の生命・営みをテーマに撮影したもの
- ③生活部門: 森での体験・活動や森から産出された木材等を活用した風景をテーマに撮影したもの

■募集期間 令和元年6月3日(月)～令和元年10月7日(月) (当日消印有効)

### ■応募資格・方法

- ・どなたでも応募できます。
- ・お一人につき1部門1点、合計3点まで応募できます。組写真、加工・編集された画像のものは、不可とします。
- ・プリントでの応募のみとします。(サイズ:キャビネ・2Lサイズ(127mm×178mm)からワイド四つ切サイズ(254mm×366mm)までの大きさ(B5六つ切、A4、四つ切を含む))
- ・カラー、モノクロいずれも応募可能です。
- ・応募作品の返却はいたしませんので、あらかじめご了承ください。
- ・写真の撮影時期は、平成28年(2016年)1月1日以降のものとしします。
- ・未発表で、かつ、応募者が一切の著作権を有しているオリジナル作品に限ります。

### ■送り先(問い合わせ先)

林野庁「わたしの美しい森 フォトコンテスト」係

〒100-8952 東京都千代田区霞が関1-2-1 TEL 03-6744-2323 メール: moriphoto2019@maff.go.jp

# 屋久島のコケ植物 (第1回)

## —— 研究の歴史と概要 ——

片桐知之<sup>1</sup>・井上侑哉<sup>1, 2</sup> (<sup>1</sup>公益財団法人服部植物研究所; <sup>2</sup>広島大学大学院統合生命科学研究所)

「筆者は數年前九州南部の苔を求めて大隅半島突端の佐多岬に辿りつき、遙かに天空を限る白雪の屋久島を眺め乍ら、彼の島にこそ九州南部フロラの鍵が秘められて居ると痛感した。蘇鐵の緑を鏤めた千仞の斷崖の下に眼くるめく黒潮の奔流が東へ東へと渦巻き泡立ちつゝ流れて居た。南九州苔類フロラ探究の手は必然的に彼の島に及ばざる可からず、而も之と對岸九州南部のフロラが如何に異なるかに一つの焦點がおかれねばならない。此の意味に於て屋久島は南九州苔類フロラにとつて畫龍點睛の地である。」

名文と謳われた服部新佐博士(1915 - 1992年)の「屋久島苔類誌I」(服部1947, 図1)の序文の一節である。服部博士は宮崎県日南市に服部植物研究所を設立してコケ植物(セン類・タイ類・ツノゴケ類を含む)の研究をされ、日本の蘇苔類学をはじめ、屋久島のコケ植物の全容解明にも多大な貢献をされた。この論文に加えて同研究所の岩月善之助博士(1929 - 2015年)によるセン類の研究により、屋久島はコケ植物の生育が旺盛で種の密度が極めて高いことや固有種と不連続分布を示す種が多いことなどが明らかにされ、その価値が世界的に認められることになった(Iwatsuki & Sharp 1967)。その後、多くの研究者よって調査が行われ、2007年の時点で665種(セン類355種・タイ類304種・ツノゴケ類6種)が報告されている(Yokoyama et al. 2007)。島内での種多様性の分布に関しては近年綿密な調査が行われ、(1)低地ではなく霧がかかりやすい山岳地で種多様性が高いこと、(2)淀川登山口\*から淀川小屋までの間(標高約1400m)が最も種多様性が高く、4×100mの範囲に100種以上の種が生育していることなどが明らかにされた(秋山ほか2013)。屋久島には日本に生育が知られているコケ植物約1900種のうち1/3が分布しており、日本のみならず東アジアの最も有名なコケ植物のホットスポットの一つである。ヤクシマの名がついたコケは20種、環境省レッドデータブック2014の掲載種は69種にのぼるが、近年も新種や国内新産種が続々と発見されており、その特異性と重要性は研究が進むたびに益々高まっている。

屋久島のコケの魅力を広く伝え守ろうとする活動も近年広がりを見せており、コケ図鑑「屋久島のコケガイド」(木口・小原2018, 図2)の発行や日本蘇苔類学会により「日本の貴重なコケの森」への認定が行われている。コケの宝庫としての屋久島から今後も目が離せない。(つづく)

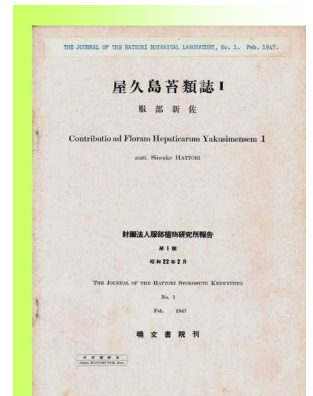


図1「屋久島苔類誌I」



図2「屋久島のコケガイド」

\*秋山ほか(2013)では荒川登山口と記載されているが、これは淀川登山口の間違いである(秋山 私信 2019)

### 引用文献

- 秋山弘之・横山勇人・田中敦司・古木達郎・山口富美夫. 2013. 多様な環境を有する島嶼における蘇苔類の種多様性調査. 32 km 長距離ベルトトランゼクト法を活用した屋久島での事例. 人と自然 Humans and Nature 24: 21-31.
- Iwatsuki Z. & Sharp A. J. 1967. Mosses of Yakushima Island, southern Japan. The Journal of the Hattori Botanical Laboratory 30: 277-314.
- 木口博史・小原比呂氏・林田信明. 2018 屋久島のコケガイド (改訂版). 公益財団法人屋久島環境文化財団, 鹿児島県.
- 服部新佐. 1947. 屋久島苔類誌 I. 財団法人服部植物研究所報告 1: 1-26.
- Yokoyama H., Yamaguchi T., Nishimura N., Furuki T. & Akiyama H. 2007. Checklist of bryophytes known from Yakushima Island, southern Kyushu, Japan. Bryological Research 9: 159-197.

# 屋久島生態系モニタリング



## 屋久島中央部地域の垂直方向植生モニタリング調査（平成29年度）

### ●No.4 プロット（標高：1,775 m 面積：50 m<sup>2</sup>）

焼野三叉路から永田岳に向かう尾根の南側の谷頭部で、所々に水が溜まった小さな湿地（小さな流れと周辺の水溜まり、一部泥炭形成が認められる）になっており、その湿地に小プロット（5×5 m = 25 m<sup>2</sup>）を2箇所設定。植生はイトススキーミズゴケ群集、植生構造は草本層のみであった。

〔毎木・植生調査〕 合計16種を確認。高木層、亜高木層、

低木層を欠き、草本層のみ成立。ヤクシカの嗜好性植物であるアセビやヤクシマジャクナゲなどの生育も確認されるが、嗜好性植物であるヤクシマダケが目立ち、コケスマレなどが混生。

〔周辺植生〕 概ねプロット内と同様であるが、

プロット内に出現する種の他にツルリンドウ、モウセンゴケ、アリノトウグサ、ツクシゼリなどを確認。またプロット内では確認されなかったイッスンキンカがプロット外で確認された。

〔過年度からの比較及び今後の動態予測〕 H24年度調査ではH19年度調査と比較した結果、ヤクシカの食害で本数が少なく矮生化していたイの被度・群度の拡大が確認された。今回の調査では、イの被度・群度はH24年度調査とほぼ変わらない結果であった。イ以外ではイボミズゴケの被度・群度の拡大、コケスマレの減少が確認された。またH24年度調査でわずかに確認されていたイッスンキンカ、フモトスマレ、ヒメウマノアシガタは確認されなかった。ヤクシカの生息数が増加に転じることなく現在のまま推移した場合、ヤクシマダケの生育状況も変わらないと考えられるが、生息数が増加に転じた場合、ヤクシマダケの食害による矮小化や嗜好性植物の割合の増加が考えられる。

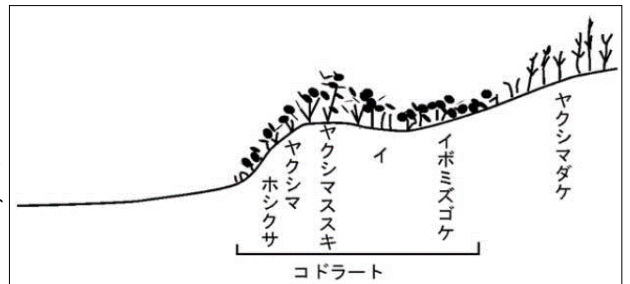


図. No.4プロット 群落縦断面図

表. No.4プロット 確認された種

アセビ	コケスマレ	ヒメウマノアシガタ	ヤクシマダケ
イ	ツクシゼリ	ヤクシマコオトギリ	ヤクシマニガナ
イトススキ	ハナヤマツルリンドウ	ヤクシマジャクナゲ	ヤクシマホシクサ
イボミズゴケ	ハリコウガイゼキショウ	ヤクシマショウマ	ヤクシマムグラ

## 「森林で学び、森林で楽しむ」 ～夏休み親子森林教室～

未来を担う子供たちに世界自然遺産屋久島の森を代表するヤクスギランドで、自然や歴史に親子で親しんでいただき、レクリエーションの森の普及啓発を図るため親子森林教室を実施します。

○開催日：令和元年8月18日（日）9:20～11:30

○場所：ヤクスギランド

○参加費：一人100円（傷害保険料等）

○定員：親子で50名（先着順・要予約）

○対象者：小学生と保護者

●申し込み方法：お電話でお申し込み下さい。

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会

（TEL：0997-42-3508）

●申し込み期限：令和元年8月9日（金）

尚、募集定員になり次第締切となります。



わかりやすい説明だね。

当日は、バスを準備してあります。屋久島離島開発総合センターからヤクスギランド及び役場尾之間出張所からヤクスギランドまで運行されます。詳細については、レク森協議会までお問い合わせ下さい。